

arcserve®

 SB C&S

Arcserve UDP 7.0

Nutanix AHV エージェントレスバックアップ手順

第 1 版

改版履歴

版数	発効日	変更箇所	変更内容
1	2019/7/19		新規作成

「Arcserve UDP 7.0 Nutanix AHV エージェントレスバックアップ手順」

発行者：SB C&S 株式会社

文中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。
内容に関する、無断複製・譲渡・転載・変更・修正を禁じます。

目次

1. はじめに.....	- 2 -
1.1. 本書の目的	- 2 -
1.2. 本書の記述・定義範囲	- 2 -
1.3. 参考文献	- 3 -
2. Acserve UDP.....	- 4 -
2.1. Arcserve UDP 概要.....	- 4 -
3. 検証環境.....	- 5 -
4. 手順	- 6 -
4.1. 仮想マシンのイメージバックアップ	- 6 -
4.2. 仮想マシンのイメージ復旧	- 10 -

1. はじめに

1.1. 本書の目的

本書は、Arcserve Unified Data Protection(以下、Arcserve UDP)の概要説明、および 7.0 にて実装された Nutanix AHV 環境のエージェントレスバックアップ、およびリストア手順を記載しています。

1.2. 本書の記述・定義範囲

arcserve Japan 合同会社(以下、Arcserve 社)の商標については下記のページを参照ください。

<https://www.arcserve.com/jp/about/legal/>

本書の著作権は SB C&S 株式会社(以下弊社)に帰属します。本書全て、またはその一部を複製や再配布することは禁じられています。

本書は、弊社にて把握、確認された内容を基に作成したものであり、お客さま環境や製品機能の仕様や動作について担保・保証するものではありません。

本書の利用に関し、トラブルが発生した場合、利用者または第三者に損害が生じた場合であっても、本書は利用者の自己責任のもと利用されているものであることを鑑み、弊社は損害賠償その他一切の責任を負いません。

本書の内容に対するテクニカルサポートは提供しておりません。

本書の内容は作成日のドキュメント、機器環境に基づきます。ソフトウェアのアップデートなどにより、操作手順が本書記載の内容から変更されることがあります。

本書に記載した URL は予告なく変更されることがあります。

1.3. 参考文献

- ・ Arcserve UDP

<https://www.arcserve.com/jp/data-protection-solutions/arcserve-udp/>

- ・ ARCSERVE UNIFIED DATA PROTECTION 7.0 ナレッジ センター

<http://documentation.arcserve.com/Arcserve-UDP/Available/7.0/JPN/bookshelf.html>

- ・ Arcserve UDP 7.0、Arcserve Replication/High Availability 18.0 リリース、および販売開始のご案内

<https://www.arcserve.com/jp/press-releases/udp70-rha180-release/>

- ・ Arcserve UDP 7.0 動作要件

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-UDP-7-0-Software-Compatibility-Matrix?language=ja>

最新対応 OS, アプリケーションは動作要件をご覧ください。

2. Arcserve UDP

2.1. Arcserve UDP 概要

Arcserve Unified Data Protection (UDP) は、仮想や物理の混在する複雑な環境のニーズを満たす次世代の統合バックアップ/リカバリ・ソリューションです。容易な操作性や、災害対策などの豊富な機能を標準で利用できることで他のソリューションと一線を画しています。多様なクラウドサービスにも対応しています。

2019年5月8日に Arcserve UDP 7.0 がリリースされさまざまな新機能、拡張機能が実装されました。

【Arcserve UDP 7.0 の主な新機能・拡張機能】

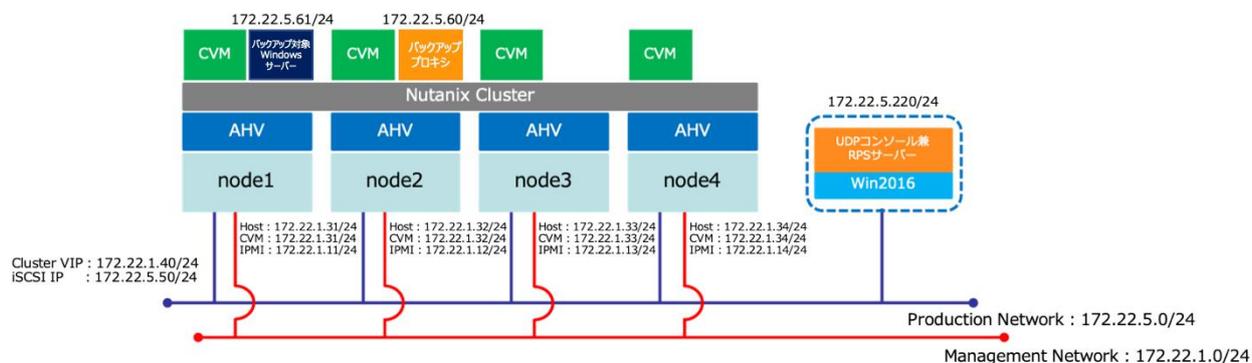
- ・ Windows Server2019 などの最新のプラットフォームへの対応
- ・ Nutanix AHV エージェントレス バックアップへの対応
- ・ Microsoft Office 365 への対応

Nutanix AHV エージェントレス バックアップには、専用の「Arcserve UDP 7.0 Advanced Edition for Nutanix AHV - Socket」もしくは上位エディションをご利用ください。

アプリケーションのオンラインバックアップ実施など、ご利用状況によっては NGT のインストールが必要となる場合がございます。

3. 検証環境

今回の検証におけるシステム環境は以下となります。



Nutanix と Arcserve UDP コンソール、復旧ポイントサーバー(RPS サーバー)を同一ネットワークに配置し、バックアッププロキシサーバーを Nutanix 上に展開しております。

AOSバージョンは 5.10.1 となります。

Nutanix 各 node 上の CVM、および iSCSI サービストラフィックは Management Network を利用します。

※バックアッププロキシサーバーの展開位置は後述の 4-1-6 を参照ください。

4. 手順

4.1. 仮想マシンのイメージバックアップ

1. [リソース] タブを選択し、左ペインの [すべてのプラン] を選択し、[プランの追加] を選択します。[リソース] - [すべてのプラン] から [プランの追加] を選択します。



2. プランの名称、タスクの種類、バックアッププロキシを設定します。

該当のバックアッププロキシが選択項目に表示されない場合、[追加] をクリックしバックアッププロキシを追加します。



3. [追加]をクリックし、「Nutanix AHV からのノードの追加」を選択します。



4. Nutanix のクラスターの仮想 IP、ユーザ名、パスワードを入力し[接続]をクリックします。

プランにノードを追加

Nutanix AHV サーバから保護するオブジェクトを選択してください。
 選択されているオブジェクトに、プラン作成後に追加された仮想マシンは自動的にこの保護プランに追加されます。選択されない限り、オブジェクトは保護されません。

Nutanix AHV サーバホストの選択

Nutanix AHV クラスターの仮想 IP アドレス: 172.22.1.40

プロトコル: HTTPS

ポート: 9440

ユーザ名: admin

パスワード:

接続

5. バックアップ対象の仮想マシンを選択しチェックを付与します。チェックを付与した上で、[保存]をクリックします。

プランにノードを追加

Nutanix AHV サーバから保護するオブジェクトを選択してください。
 選択されているオブジェクトに、プラン作成後に追加された仮想マシンは自動的にこの保護プランに追加されます。選択されない限り、オブジェクトは保護されません。

Nutanix AHV サーバホスト: 172.22.1.40

172.22.1.40

- APACHE-0-190708-234448
- arc-Win2016-1
- arc-Win2016-2

ヘルプ 保存 キャンセル

6. 保存後、選択したバックアップノードが表示されます。続いて、バックアップオプションを選択します。今回は Nutanix AHV からのバックアップのため④が該当となります。

- ①VMware スナップショットの静止方法
- ②VMware の転送方式
- ③Hyper-V スナップショットの作成方法
- ④Nutanix AHV 転送方式

Nutanix AHV 転送方式はバックアッププロキシ サーバーの環境により異なります。

- ・ ボリュームグループ(iSCSI) : バックアッププロキシサーバーが外部にある。
- ・ HOTADD : バックアッププロキシサーバーが内部にある。

プランの追加

ローカル サイト-新規のプラン このプランを一時停止

バックアップ プロキシ: arcserveproxy

<input checked="" type="checkbox"/>	ノード	VM 名	除外	インベントリ	仮想ディスクの除外
<input checked="" type="checkbox"/>	VM(arc-Win2016-1)	arc-Win2016-1			いいえ <input type="button" value="設定"/>

VMware スナップショットの静止方法

VMware Tools VM 内の Microsoft VSS

静止したスナップショットの作成に失敗した場合は、静止せずにスナップショットを取得

VMware の転送方式

利用できる最適な方式を VMware が自動選択する このプランでの方式の優先度を設定する

Hyper-V スナップショットの作成方法

VM は Microsoft VSS によって作成されるスナップショットを使用してバックアップする必要がある

VM はスナップショットを作成する前に「保存」の状態にする

Nutanix AHV 転送方式

ボリュームグループ (iSCSI) HOTAAD

静止したスナップショットの作成に失敗した場合は、静止せずにスナップショットを取得

※転送方式でボリュームグループ(iSCSI)を選択し Nutanix iSCSI データサービス IP が設定されていない場合、以下のエラーでバックアップが失敗します。

バックアップ ジョブが失敗しました。

バックアップ用の仮想マシンのディスクに接続できません。

Nutanix クラスターで iSCSI データ サービス IP が設定されていません。ボリュームグループ (iSCSI) モードでバックアップジョブを実行するには、クラスターの iSCSI データ サービス IP 設定を完了させてください。

ノード 169.254.232.238 のインポートに失敗しました。

7. 「デスティネーション」を選択し、復旧ポイントサーバ(RPS)を指定します。

8. 「スケジュール」を選択し、必要に応じたバックアップスケジュールを設定します。

9. 「拡張」を選択し、必要に応じた拡張設定を追加します。特に変更がなければ初期値の状態、「保存」をクリックします。

10. 「すべてのプラン」 に作成したプランが表示されます。

即時でバックアップする場合は、[アクション]から「今すぐバックアップ」を選択します。

<ul style="list-style-type: none"> ▶ プラン グループ ▶ Nutanix AHV グループ ▲ プラン すべてのプラン 	<input checked="" type="checkbox"/>	バックアップテストプラン	1	0	1	0	✔ 変更: 成功 (1)
--	-------------------------------------	------------------------------	---	---	---	---	---

4.2. 仮想マシンのイメージ復旧

1. 「すべてのノード」からリストアする仮想マシンにチェックを付与します。

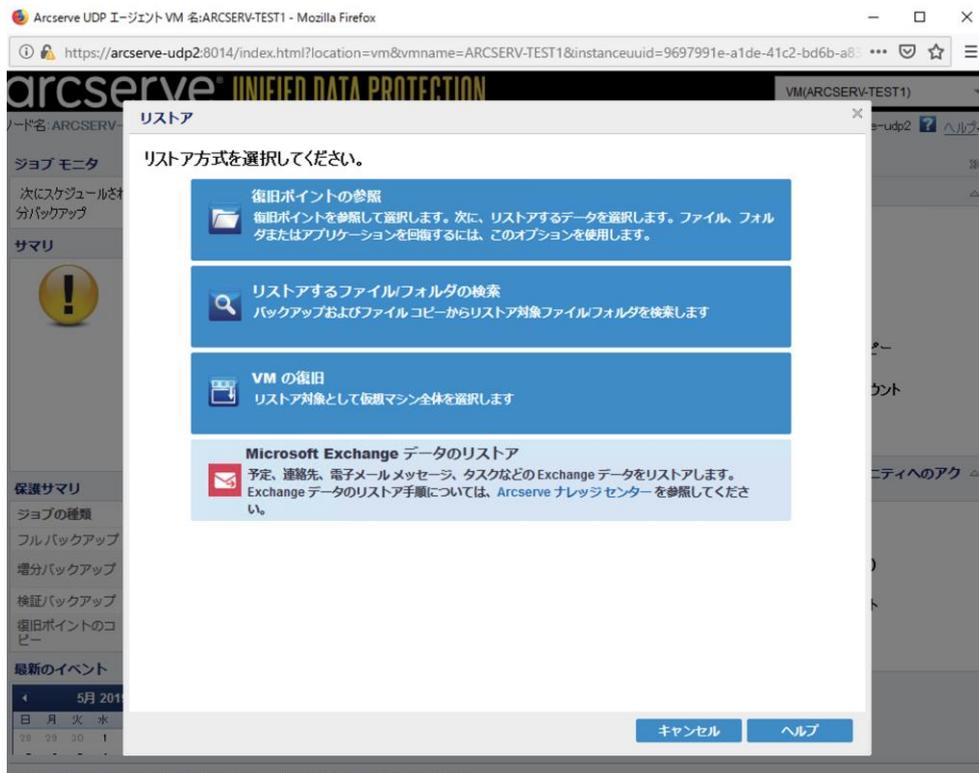
The screenshot shows the Arcserve Unified Data Protection web interface. At the top, there is a navigation bar with 'メッセージ (0)', 'administrator', and 'ヘルプ'. Below this is a breadcrumb trail: 'ダッシュボード > リソース > ジョブ > レポート > ログ > 設定 > ハイアベイラビリティ'. The main content area is titled 'ノード: すべてのノード'. On the left, there is a tree view under 'ノード' with 'すべてのノード' selected. The main table has columns: 'ステータス', 'ノード名', 'VM名', 'プラン', 'ハイパーバイザ', and '前回のバックアップ結果'. One row is visible with a green checkmark in the 'ステータス' column, 'VM(arc-Win2016-1)' in the 'ノード名' column, 'arc-Win2016-1' in the 'VM名' column, 'バックアップテストプラン' in the 'プラン' column, '172.22.1.40' in the 'ハイパーバイザ' column, and '完了' in the '前回のバックアップ結果' column.

ステータス	ノード名	VM名	プラン	ハイパーバイザ	前回のバックアップ結果
<input checked="" type="checkbox"/>	VM(arc-Win2016-1)	arc-Win2016-1	バックアップテストプラン	172.22.1.40	完了

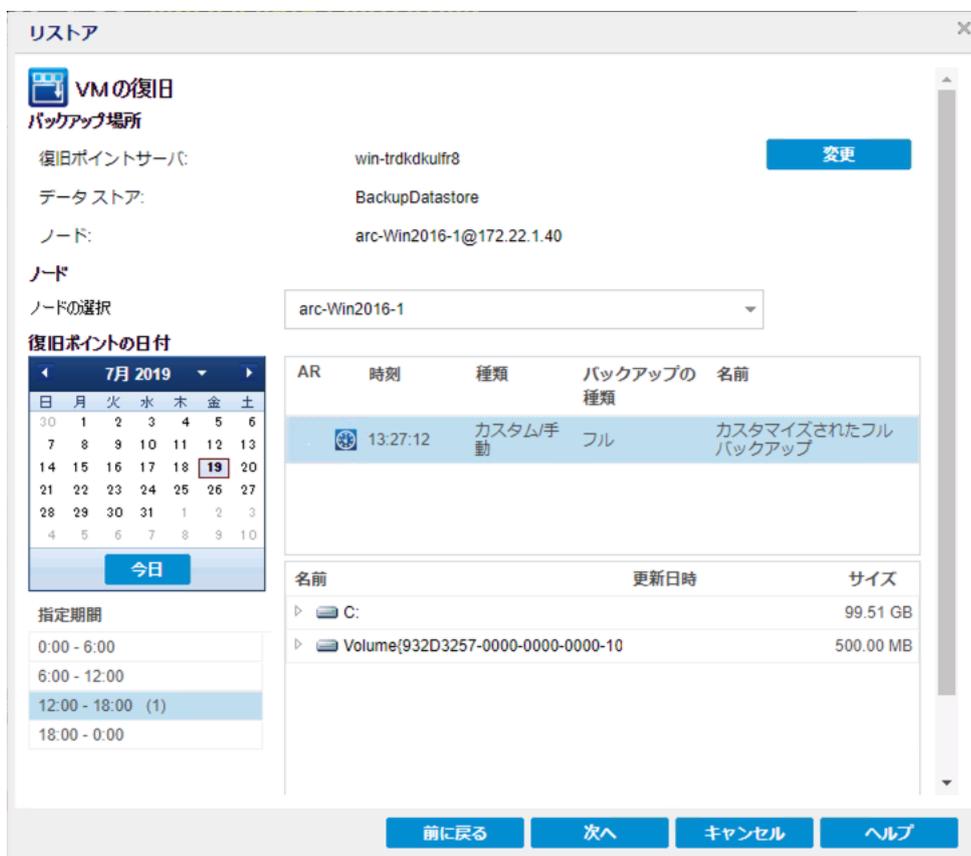
2. 「アクション」から「リストア」をクリックします。

The screenshot shows the 'アクション' (Action) dropdown menu. The menu is open, showing options under 'ノードグループ' (Node Group) and 'ノード' (Node). Under 'ノード', there are options: '削除' (Delete), 'エクスポート' (Export), 'インポート' (Import), 'VM情報の更新' (Update VM Information), 'プランの変更' (Change Plan), and '診断情報の収集' (Collect Diagnostic Information). Under 'アクション' (Action), there are options: '一時停止' (Pause), 'リストア' (Restore), 'インスタントVMの作成' (Create Instant VM), '復旧ポイントをクラウドからダウンロード' (Download Recovery Point from Cloud), '復旧ポイントをクラウドにアップロード' (Upload Recovery Point to Cloud), and '復旧ポイントをローカルディスクまたはネットワーク共有にコピー' (Copy Recovery Point to Local Disk or Network Share).

3. ブラウザーが新たに起動するため、「VMの復旧」を選択します。



4. 復旧ポイントサーバを選択し、復旧ポイントサーバに保存されているバックアップデータから復旧させるデータを選択します。



5. リストア先の場所を指定、競合の解決、Nutanix AHV 転送方式、復旧後の処理を指定します。
Nutanix AHV 転送方式に関してはバックアップ同様、ボリュームグループを使用する場合は、iSCSI サービス IP の設定が必要になります。



6. リストア先を「別の場所にリストアする」を選択すると、他の Nutanix クラスタを指定することができます。この時の注意点としては、「次へ」を押す前に必ず「この Nutanix クラスタに接続」をクリックし、VM 設定の項目が表示されてから実施する必要があります。

クラスタへの接続をせずに「次へ」をクリックすると「コンソール：検証しています」とプログレッシブが表示され次へ進めません。

接続後、仮想マシンを配置するストレージコンテナを選択します。



ソースディスク	サイズ	ソース ボリューム	ターゲット ストレージ コンテナ
ディスク0	100.00 GB	\\?\Volume{932D3257-0000-0000-0000-100000000000}\:C:\	

7. 最後にサマリが表示されるので、確認後「完了」をクリックするとリストアが開始されます。

リストア

リストア サマリ
設定が正しいことを確認した後、[完了] をクリックしてリストアプロセスを開始します。

デスティネーション
別の場所にリストアする

Nutanix AHV クラスタ情報

Nutanix AHV クラスタ
スタ仮想 IP アド 172.22.1.40
レス:
ユーザ名: admin
パスワード: *****

VM 設定

VM 名: arc-Win2016-1

仮想 ディ	ソース ディ スク	サイズ	ソース ボリューム	ターゲット ストレージ コンテナ
ディスク0	ディスク0	100.00 GB	\\?Volume{932D3257-0000-0000-0000-100000000000}(C:)	default-container-61994

前に戻る 完了 キャンセル ヘルプ

以上で手順は終了となります。